

ヘルスシステム統合科学研究科（博士前期課程）における3つの方針（ポリシー）

【入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）】

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを達成するために、本研究科博士前期課程では次のいずれかの資質を持つ者を求める。

- ・ それぞれの出身学部における分野で必要とされた知識を習得しており、医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、分野を超えた学際的研究に強い意欲を持つ者。
なお、出身学部における分野で必要とされた知識とは、例えば、工学系では生命医用工学分野等、医療系では創薬科学分野、または保健学分野等、人文社会科学系においては哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、または法学等である。
- ・ 自ら選んだ研究分野における基礎研究や応用研究に留まらず、異なる分野の研究手法を積極的に取り入れることに強い興味と意欲を持つ者。
- ・ 医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、社会での活用可能なアイデアを現場と連携して創出することに強い興味と意欲を持つ者。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）】

人材育成のサイクルをなす、4群の活動（①自然・社会（現場）に対して、②それを観察解析する学術を行う活動が対応し、③構成的な学術を行う活動として、その知見を応用してものづくりや新制度考案などアイデア創出を行い、④その成果であるアイデアを応用して行動する活動がまた①自然・社会（現場）を相手にしていく（社会での活用）、という4群の活動が循環するサイクル）に対応連携させて、

- ・ ヘルスシステム統合科学としての前期課程レベルの専門を扱う「統合科目」
- ・ ヘルスシステム統合科学を構成する専門分野の知識や思考を前期課程レベルに深化させる「専門科目」の二種類の科目からなる統一カリキュラムを編成する。

【学位授与の方針（ディプロマポリシー）】

学部教育で学んだ専門に重層して他専門領域の手法を学び、課題を創造的に解決する能力と専門的知識を有することが前提である。この前提により、社会の多様な場で課題解決に貢献できる専門知識と研究能力を身に付けた人材として、医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題を理解し、研究及び技術開発、そして物質面及び人間の理解を併せ持つことで、個人の専門分野を活かしつつ他分野を理解できた上、社会において活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出することで、課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支えることができる専門知識と研究能力を身に付けた学生に「修士（統合科学）」の学位を授与する。

ヘルスシステム統合科学研究科（博士後期課程）における3つの方針（ポリシー）

【入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）】

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを達成するために、本研究科博士後期課程では次のいずれかの資質を持つ者を求める。

- ・ 豊かな教養と高い倫理意識を持ってヘルスシステム統合科学の博士前期課程レベルでの専門的知識を修得した者で、医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の諸課題を学際的手法により解決することで、人類の幸福に貢献しようとする強い意欲がある者。
- ・ 出身学問分野は問わないが、それぞれの分野における修士の専門を修得しており、豊かな教養と高い倫理意識を持って医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の諸課題に関して分野を超えた学際的研究に強い意欲と十分な能力を持つ者。
- ・ 医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、自ら選んだ研究分野における基礎研究や応用研究に止まらず、豊かな教養と高い倫理意識を持って社会での活用可能なアイデアを自ら創出することに強い興味と意欲を持つ者。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）】

人材育成の、4つの活動（①自然・社会（現場）に対して、②それを観察解析する学術を行う活動が対応し、③構成的な学術を行う活動として、その知見を応用してものづくりや新制度考案などアイデア創出を行い、④その成果であるアイデアを応用して行動する活動がまた①自然・社会（現場）を相手にしていく（社会での活用）、という4群の活動が循環するサイクル）に対する個々の専門の知識や能力をさらに高めるとともに、医療関連の現場を直視して自然科学及び人文社会科学双方の知性を兼ね備え、サイクルの中の複数の人材育成の活動を連携させる総合的な能力を高められるように、

- ・ ヘルスシステム統合科学としての後期課程レベルの専門を扱う「統合科目」
 - ・ ヘルスシステム統合科学を構成する専門分野の知識や思考を後期課程レベルに深化させる「専門科目」
- の二種類の科目からなる体系的・段階的なカリキュラムを編成する。

【学位授与の方針（ディプロマポリシー）】

現場の課題を整理して建設的な仮説を立てられ、その仮説を諸専門の手法を組み合わせながら適切な科学的方法で証明できる研究能力を有することが前提である。この前提により、社会の多様な場で自ら方針を示して課題解決に貢献する専門知識と研究能力を身に付けた中核的人材として、医療現場を構成する人々としくみ（ヘルスシステム）の課題を理解し、研究及び技術開発、そして物質面及び人間の理解を併せ持つことで、個人の専門分野を活かしつつ他分野を理解できた上、社会において活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出することで、課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支えることができる専門知識と研究能力を身に付けた学生に「博士（統合科学）」の学位を授与する。